

No. 11

建設防災 ボランティアニュース

発行人 沼尻 執
 編集人 城之内一成
 発行 東京都建設防災ボランティア協会
 事務局 (財)東京都駐車場公社内(Tel: 03-5381-3370)
 横田マリ子、金田宗明
 (財)東京都公園協会内(Tel: 042-548-9161)
 荒木 清

平成15年度・当協会の主な活動記録

- 5月28日 役員会開催 (15年度定期総会準備)
- 6月13日 平成15年度定期総会 (第7回) 開催
 会場: 日比谷市民カレッジ 出席者: 92名
 ○ 役員人事了承 (小山幸也新理事選任)
 ○ 総会終了後、会長から各事務所の15年度のチームリーダー、サブリーダーに指名通知書が交付される
- 6月16日 役員会開催 (役員業務分担、事業予定)
- 6月26日 リーダー会議 (道の日、河川愛護月間)
- 7月11日 第8号防災ボランティアニュース発行
- 7月06日~30日 「河川愛護月間」に参加
 ○ 河川部主催の「川のパネル展」の手伝い
 ○ 各建設事務所主催の「川を歩こう会」
 ○ 民間団体の「野川を歩く会」の案内
- 8月06日~8日の3日間「道の日行事」に参加
 ○ 道路功労者と標語入選者表彰式の会場整理
 ○ 新宿西口広場でのパネル展示等の案内
- 9月01日 「東京都・日野市合同総合防災訓練」に参加
 ○ 高幡不動駅周辺にて道路障害物除去訓練 当協会の参加者: 8名
 ○ 浅川の新井橋付近にて水防訓練 (当協会の参加者: 20名)
- 9月24日 第9号防災ボランティアニュース発行
 ○ 「河川愛護月間」、「道の日」特集号
- 26日 砂防講習会開催
 ○ 都庁第一庁舎にて、河川部飯塚防災課長、新交通石井課長及び砂防関係係長 (今野、村山、高橋、永井の4名) を講師にお招きして行われました。
- 10月06日、9日、17日の3日間4建管内道路施設点検
 ○ 16路線49Kmの歩道を中心に往復実施 (4建班4名参加)
- 11月07日 河川愛護月間行事の意見交換会開催
 ○ 河川部主催。川の愛護月間反省会 (河川部5名、事務所12名、協会10名)
- 11月28日 施設見学会開催
 ○ 第四建設事務所のご厚誼により環状8号線「岩淵から南田中」の視察会を実施 (参加者: 57名)

12月05日 普通救命講習会開催

- 新宿消防署のご厚誼により、新規の受講者 (14名) を対象に行われました。

12月15日 第10号防災ボランティアニュース発行

- 1月16日 15年度建設局初動対応訓練に参加
 ○ 参集訓練のみ参加 : 76名
 ○ 参集後、局訓練に参加 : 28名

2月02日 役員会開催

2月24日 平成15年度防災講習会開催

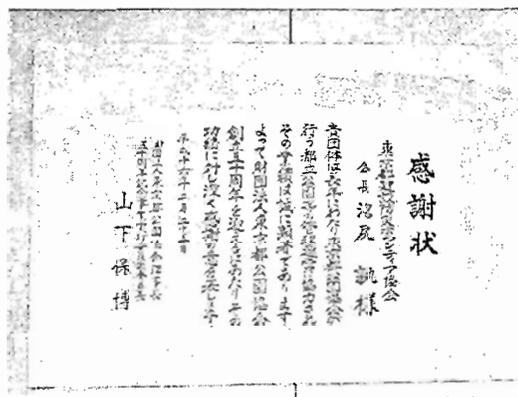
- 日比谷にて、参加者: 約100名
- 講師: 竹内災害担当部長、今泉・石原課長



講演中の竹内部長

東京都公園協会より当協会に感謝状贈呈

平成16年2月25日、新宿明治安田生命ホールにて、公園協会から我がボランティア協会に対して、感謝状が送られ、当協会を代表して沼尻会長が受賞されました。この感謝状は、公園協会創立五十周年記念行事の一環として行われたものです。受賞理由は、「水辺事業イベント、公園イベントにおける場内警備・案内等の応援活動や防災訓練活動に尽力」となっています。



公園協会から贈呈された感謝状

平成15年度建設局初動対応訓練アンケート調査結果

(東京都建設局防災ボランティア)

建設局総務部企画調整課 久松泰子主任

訓練に参加された防災ボランティア人数	104
参集訓練のみ参加された方	76
徒歩参集後、局での訓練に参加された方	28

局訓練に参加された方のうち、アンケート回答数(全員応答対策班) 15

【初動対応訓練について】

1 参集訓練について(参集訓練に参加した方のみの答え)

問1 参集に要した時間は、事前に予想した時間と比べていかがでしたか？

	回答数
1 予想より長かかった	5
2 予想より短かった	3
3 予想どおり	4
回答なし	3

問2 参集途上では非常時の参集ルートを確認できたか？

	回答数
1 確認できた	13
2 あまりよくわからなかった	1
回答なし	1

2 本部運営訓練について

問3 職員に対する指揮命令などは的確に行われたか？

	回答数
1 的確に行われた	4
2 的確に行われなかった	4
回答なし	7

2の具体的理由

- ・ 現地対策班への現地調査への指導が不適切
- ・ 点検出発前に点検箇所が混乱した
- ・ 点検などの手順を明示するなど、メリハリをつけてほしい
- ・ 指揮者が誰なのかあいまい。腕章などで明示してほしい

問4 他の班との連絡は円滑に行われましたか？

	回答数
1 円滑に行われた	6
2 円滑に行われなかった	1
回答なし	8

問5 訓練の中での自分の役割を理解して、その役割を果たせましたか？

	回答数
1 充分理解して役割を果たせた	7
2 訓練実施の中で役割を理解することができた	4
3 あまり理解できなかった	0
回答なし	4

問 5-2 自分の役割を理解して役割を果たせた理由(複数回答可)

	回答数
ア 事前に「震災対策の手引き等」を読んでいた	4
イ 事前説明会で理解できた	1
ウ 指揮命令が的確に行われた	1
エ 周囲の参加者との協力による	6

問6 同じ班の中で周囲の職員と協力して作業できたか？

	回答数
1 協力して作業できた	11
2 あまり協力し合えなかった	0
回答なし	4

* 問7～問11は作戦班、情報班を対象とした設問のため略

【応急対策班の方のみ回答してください】
(事務所(園)のみ)

問12 点検出動は円滑に行われましたか？

	回答数
1 円滑に行われた	9
2 円滑に行われなかった	6

2の具体的理由

- ・ 携帯電話による現場状況の送信作業ができない組み合わせであり、確認する必要がある
- ・ 無線機の充電不足で通話中に不通となった
- ・ 管内図等で確認してから出発したい
- ・ 無線のやりとりの練習が必要

問12-2 点検出動が円滑に行われなかった理由(複数回答)

	回答数
ア 点検出動先の場所がよくわからなかった	3
イ 指揮命令が的確でなかった	2
ウ 陸上無線をうまく使えなかった	3
エ その他	1

問13 訓練を通じて実際の災害対応に対する自信を得ることができましたか？

	回答数
1 得られた	8
2 得られなかった	6
回答なし	1

1の具体的理由

- ・ 管内の地理の理解が深まった
- ・ 参集時に被災状況を想定しながら歩いてよかった

2の具体的理由

- ・ 陸上無線がうまく使えなかった
- ・ 状況付与の内容の設定に無理があった
- ・ 昨年とほぼ同様の内容で現実味に乏しい
- ・ 災害時には電話は機能しないのではないか
- ・ 災害情報の緊急性の判断を誰が行うのか疑問
- ・ 実際には訓練よりもずっと厳しい状況でないのか

15年度の防災講習会は「三宅災害」をテーマに開催

防災講習会担当 雑賀・興水

今年度の防災講習会は2月24日午後、東京都公園協会日比谷市民カレッジ会議室をお借りして催しました。

いわゆる「三宅災害」に対しては、地理的要件や今日も続いている災害状況などから、当協会が直接支援する機会が生じておりません。しかし、会員の方々も大きな関心ごととなっております。そこで、日夜対策の陣頭指揮をとられている総務局の竹内災害担当部長さんを訪ね、最近の状況をお聞かせ願いたい旨のお話をしたところ、快くお引き受け頂き、今回の開催となりました。

講師は、当日の朝、三宅島から戻り駆けつけてくれた竹内部長さん、三宅支庁の今泉土木港湾課長さん、並びに石原産業課長さんの3名の方のご出席を得て、それぞれに担当分野のお話を聞くことができました。

会員の関心度を反映してか約100名の参加を得て、会場一杯の盛況でした。以下にその概要(レジメ)を報告します。

◎竹内部長

挨拶をかねて、復旧事業の概要と今後の取り組み方針などを披露されました。また、具体的内容は課長さんからとして、近い将来、復旧事業の一環として当協会への支援要請もありました。…緊急の所用で退席。

◎今泉土木港湾課長

- * 火山活動と災害復旧の取り組み
- * 被災状況 * 緊急対策
- * 復旧状況 ~砂防ダム~ ~道路~
- * 最近の話題として、
帰島プログラム準備検討会
民宿の活用(ガス対策を施した民宿) など

◎石原産業課長

- * 三宅島緑化ガイドラインを中心に、必要性や取り組みの概要
- * 緑化に向けたボランティアへの期待 など

パンフレットとパワーポイントを活用しての具体的な説明を頂き、現状を理解することができ、また、なかなか衰えを見せない噴出ガスのなかでのご苦労が伺えました。

周回道路の機能確保をはじめ、各戸までの出入り確保、25基の治山ダムの完成、今年度末までの各戸給水確保等、着実な復旧対策の進捗に敬意を表する気持ちでした。

しかし、島民の帰島と安定した生活環境の確保に向けては、まだまだ多くの課題を克服しなければならぬ現状も認識した次第です。

当協会としても、支援策の具体的要請があった場合には、会員の皆様にお困りしたいと考えております。多数の講演会・懇親会へのご参加、感謝いたします。

問14 訓練に参加してよかった点がありましたらお聞かせください

- ・ 防災ボランティア本来の役割を認識した
- ・ 参加して、現実に色々な不足事項が見えてきた
- ・ 事務所の職員といっしょに行動できてよかった
- ・ 震災時の対応等を改めて考えることができた
- ・ 参加者同士でコミュニケーションが図れた
- ・ 事務所災害対策本部の近くに居住する職員及びボランティアの参加が、現実的でよかった

問15 訓練全体の自由意見をお聞かせください

- ・ 事務所災害対策本部の近くに居住する職員及びボランティアの参加が、一次訓練としては有効
- ・ まだまだスムーズでない部分がある
- ・ 災害が実際に起きたらどうなるか考えさせられる
- ・ 震災時は訓練どおりには行えないが訓練を積み重ねることが大切
- ・ 無線機は常に充電しておく
- ・ 遠い箇所に点検に行くために、自転車が必要
- ・ 調査点検個所的確な指示があるとさらに良い
- ・ 点検に先立ち、詳細管内図で場所を確認すべし
- ・ 今回は参集可能な職員での組織下であり、不慣れな点が見られた
- ・ 停電、断水の前で訓練実施すべき
- ・ 事務所で管内図の準備が必要

【「震災対策の手引き」について】

問16 参集態勢についてどうお考えですか？

	回答数
1 現在の参集態勢でよい	10
2 現在の参集態勢を変えたほうが良い	0
回答なし	5

問17 班編制についてどうお考えですか？

	回答数
1 現在の班編制でよい	9
2 現在の班編制を変更したほうが良い	1
回答なし	5

2 の具体的理由

- ・ 応急班の人員が不足する可能性が高いので、実際に即した班編制とすべし

問18 手引きで改善した法が良い点をお聞かせください

- ・ 阪神大震災の教訓は取り入れられているか
- ・ 災対本部立上げ方法について検討が必要

問19 その他、手引き全体を通じての自由意見は？

- ・ 現在の通信機器のみで対応可能かどうか不安
- ・ 啓開作業指示を出す場合の緊急度判定の基準を明らかに共通判断が可能となるようにすべし

建設局初動対応建訓練に参加して

1 建班 堀中 逸

訓練当日（1月16日）は快晴、しかし気温は3～4度か、ピリットした寒気の中、7時半に参集事務所である一建に向け、いつもの通勤とは異なる服装と心構えで南砂にある自宅を徒歩で出発した。現役時に通い慣れた場所であり、ルートは熟知している。永代通りなどの幹線道路から4m道路までを選択しながら歩き丁度1時間、8時30分に到着した。すでに7～8名の職員が本部の立ち上げ、情報収集などに真剣に取り組んでいた。次々と後続の職員が到着し、点検班も3班体制のうち2班がすみやかに編成され、それぞれの現場に出発したが、もう1班の編成が遅れていたところ、班長から点検にどうかとの声がかかった。いよいよ出番である。現場は徒歩範囲の月島地区であり、3名で出かけ、情報を本部に連絡後、帰庁し午前中の訓練が終了した。13時（想定は17時）から本部長である所長以下、職員も参加、訓練が再開され、臨戦態勢の雰囲気が高まった。状況の分析から、啓開業者や警察への模擬通報・指示などほぼ的確に行われ、15時過ぎに一連の訓練が無事終了した。



熱心な反省会風景

その後1階の会議室に場所を移し、約40名が車座になり反省会が開始された。所要参集時間をはじめ、参集ルートの迷いや訓練上の改善点など積極的な意見が出され16時に終り、その後アンケートを記入し、解散した。訓練に参加しての感想を記したい。

まず、ボランティア会員に対する暖かい対応を挙げたい。点検班への参加、反省会での意見の開陳、さらには訓練終了後に所長室で訓練時のスナップ写真の受領など、身に余る対応をしていただいた。

つぎに、参集途上、無電柱化道路の必要性をあらためて痛感した。災害の深刻さを軽減する根幹的な施策として引き続き強力で推進してもらいたい。また、一建への参集職員は白金住宅入居者が多いが、徒歩で2時間弱も要するなど条件が悪い。反省会でも意見が出されていましたが、災害時には参集可能か大きな不安と感じた。

最後に、災害時には実際にそこに居住する人が被害を受ける。火事が出ればその人々が消防や警察に通報し、あえて局の事務所を経由することは無であろう。局及び事務所がしなければならぬことを発災時から復旧時までの長いスパンのなかで、明確にとらえたうえで職員一人ひとりが自覚しておくことが不可欠である。もちろんボランティア会員も職員の一人名となることである。

建設局初動対応訓練に参加して

南西建 矢野末義

平成16年1月16日（金）に「平成15年度建設局初動対応訓練」が実施されました。

今回の訓練は、新しい試みとして「5キロ圏内居住参集対象職員」のみで、事務所本部の立ち上げから点検出動、協定業者との情報連絡等従来の訓練の全てを行う30名程度の体制（フェーズⅠ）と地震発生当日17時になったと想定のもとに管理職等が参集し、初動体制がある程度整った状況での訓練（フェーズⅡ）とが実施された。

ボランティアについても5キロ圏内居住参集対象者の参加が要請され、あわせて、5キロ超え居住参集者会員については、参集訓練のみ行うこととなりました。

私は八王子市在住「5キロ圏内居住会員」のため南多摩西部建設事務所の訓練に参加いたしました。

自宅から事務所までのルートは山田川沿いの道であり、交差する国道16号線及び都道160号線があり、橋梁および護岸の被害状況を調査しながら参集しました。事務所到着後、訓練参加確認用受付で「状況付与・検証担当者」の確認を受けた後、参集途上における橋梁等の被害状況を報告し「応急対策班」に組み込まれました。

今回は、「状況付与・検証担当者」及び前記補助者が決められ、この担当者により「状況付与カード」が作成されて、適宜情報が出される事となり、訓練参加者は事前にこの情報は知らせないとのことでした。

上記補助者が適宜に地元住民・関係機関・協定業者の役も受け持ち、従前とは違って、参加者にはシナリオの無い訓練となり、それなりの意義があったと思います。

15時15分から訓練の検証を所長が統括し、「状況付与・検証担当者」中心となって、行い、訓練参加者全員で反省会を行いました。

この中で、本日点検箇所の一つで急傾斜地における、斜面崩壊・家屋損壊・道路閉塞の想定現場に向いた点検班より土砂撤去の要請が情報班に入り、協定業者に要請をしたところ、「当社はそのような作業の契約はしてない」と拒否されてしまった、と云う課題である。このことについて「状況付与・検証補助者」からの説明は道路についての協定業者がいるが、河川部所管の急傾斜地については、そのような契約行為は無い、また近接した道路は市道であり、このような場合さてどうすべきかを検討して欲しかったとのことでした。

今までの訓練では管理施設の処理訓練のみであったのに、さすがベテランの「状況付与・検証補助者」だと感心しました。

その他いろいろな意見が出されましたが、私の気になった一点は他事務所からの応援職員から点検の班分けの時に、土地勘が無いので、地名、路線名を云われても分かりにくいとの意見が出されました。

今後、他事務所からの応援予定者に対する管内P・Rが必要なのではないかと感じました。

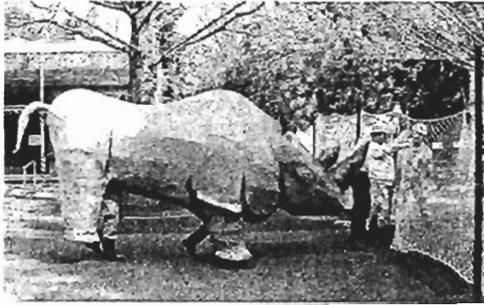
猛獣脱出等対策訓練に参加（上野動物園）

施設点検参加の意義

「サイが逃げた」

（報告者：上野 Zoo.GL 小森和雄）

2月26日（木）午後1時30分に地震が発生した。上野動物園西園のサイ舎の壁面が壊れ、サイ1頭が脱出した、との想定のもとに、「猛獣脱出等対策訓練」が実施されました。この訓練は、上野動物園と多摩動物公園とで、毎年交互に実施しているもので、恒例の行事とさえなっているものです。



職員を襲うサイ

この訓練には、各動物園を担当する「建設防災ボランティア」にお声をかけて頂いており、参加しております。本年度は、上野動物園の担当5名の内、直江・後藤・堂下・小森の4名が参加しました。

サイ舎から、実物大の張子のサイ（中に二人が入っている）が、キリン舎・小獣館・モノレール西園駅・両生・爬虫類館前広場へと、来園者や職員に怪我を負わせながら逃げ回ります。この間に、警察への通報・救急車の出動要請・飼育課職員による防獣網の設置・ガードマンによる来園者の避難誘導等の訓練が行われます。

訓練は通常の営業時間中に実施されるので、防災ボランティアは、当日の入園者を、安全な場所と想定した場所から出ないように規制する役割を主に担当しました。

また、小森は庶務課職員が、報道対応等で手が足りないことから、記録班を依頼され、サイの動きに合わせて行動し、写真撮影を担当しました。二年前にも記録班を担当しましたが、逃げた動物だけでなく、周りの状況も撮っているため、今回の立案に役立ったとして、今回も名指しで依頼がありました。

訓練開始から約30分後、防獣網で取り囲まれた「サイ」は、麻酔銃で撃たれ、取り押さえられました。そして、園長の講評をもって訓練は終了しました。

当日は、天気が良く、お客さんも多い中での訓練でしたが、子供連れの若いお母さんが多かったせいか、サイが通るところは「カメラ付き携帯」の放列という感じでした。また、訓練終了後の、園長等への報道関係者へのインタビューは、訓練のことよりも「パンダの妊娠の可能性や鳥インフルエンザ対策」といった質問が多かったようです。

——三建所管の道路施設点検に参加して——

三建班 雑賀 徹

昨年11月6日、12日に行われた第三建設事務所管内道路の施設点検に参加しました。同所では道路施設点検とバリアフリー点検を個別に行いました。私は現役時代の思いもあり、両方に参加させていただきました。調査しての実感ですが、新宿副都心街路で行った道路施設点検はこの道路でさえ頭の上から足下まで360度問題点を拾えばきりが無いと言う感じでした。

そこで、都道のサービス水準を自問自答しながら、自分の年齢も加味してもっばら歩道面に注目して歩きました。歩道は車道の良好な状況に比べれば、平坦性、段差、置看板、自転車などの放置物等要対策がたくさんありました。

外堀通りで行った車椅子による調査では、カラーブロック舗装（インターロッキングタイプ）に改善すべき点がありました。歩行では気にならない程度の凹凸でも車椅子では敏感に感じます。これが段差やちょっとした勾配があれば転倒の危険を有します。ブロック舗装の構造そのものにも因があるように思われました。

三建ではこの調査結果を基に今後逐次改善していくそうですが、手間暇のかかることだと感じました。

さて、本調査に参加するまでの経過を若干説明します。実は過去に、役員の間で災害時に役立てるため、各班が自主的に道路調査を行ってはどうかと話し合ったことがありました。私見になりますが、私は災害時の混乱の中では、如何に多くの情報を持っているかは重要なことだと思っております。特に、現行の発災時職員配備体制が、5km圏内居住者が最寄り事務所に参集する方式であり、言えば寄せ集めの部隊であることからのことと思えます。今年1月16日に行われた「建設局初動対応訓練」に参加して一層その思いは強くなりました。

しかし、残念ながらその時は結論が出ませんでした。実はその時点で建設局がこのような調査を行っていることも知りませんでした。昨年春、第四建設事務所から四建班に施設点検への協力要請がありました。四建班が参加すると共に、道路管理部に他班の参加も要請をしました。道路管理部に快く受け入れていただき、今回の実施となりました。

この調査に今後とも多くの会員の皆様が参加し、より多くの道路を歩き知ることが、いざ鎌倉の際に必ず役立つことになるかと確信しております。

寄稿 「荒川にサケを放つ」

建設防災ボランティア協会 小森和雄

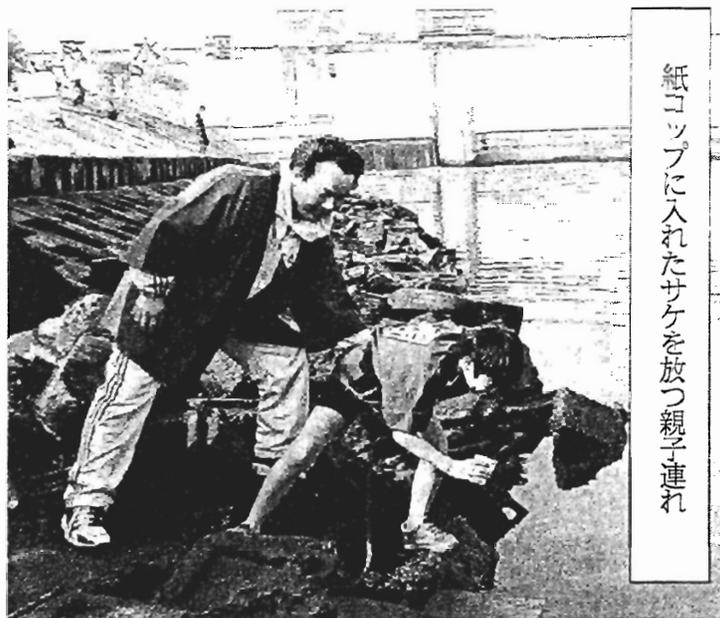


荒川にサケを放つ会に集まってきた人々

「荒川にサケを放す会」が2月11日に第24回目の放流を行いました。場所は水道局の朝霞浄水場の近く、水資源開発公団の秋ヶ瀬取水堰の下流です。ワンカップで一匹だけ育てた子供や、何百匹もエヤレーション付きの容器で運んできた人もいます。地元埼玉だけでなく、東京や千葉からも大切に育てたサケを運んできています。個人で育てている人、保育園等教育活動の一つとして育てているところもあります。

集まってきたサケも、数センチと小さいながら立派なサケの姿をしているものもあれば、まだ、お腹が丸くふくっていて黄卵を抱えていて成長の遅れているものもあります。放流に際し、サケを育ててきた子供達や保母さんの別れゆくサケへの想いを語るセレモニーが行われました。また、サケが確実に戻ってきているという話「毎年20万尾程放流している。去年は、40尾が捕獲された。また、秋ヶ瀬取水堰の下流に棲みついたアゴヒゲアザラシの「たまちゃん」がエサとして、8尾食べた痕がある。従って、50尾弱が帰ってきたと言える。」が報告されました。

当日は風もなく晴れた日で、園児達は先生達に抱きかかえられるようにしながら、一人づつ紙コップに入れたサケを放流していました。河原に集まった約千人は、三〜四年後にサケが大きくなって帰ってくることを願いつつ、帰途につきました。



紙コップに入れたサケを放つ親子連れ

私は、昭和63年の第9回より放流していきます。きっかけは、市の公民館だよりにてでいた「サケの卵お頒けします」という小さな記事でした。今年も、昨年12月7日に、年会費1000円を払い、50粒を頒けてもらい、エア一付の3リットル程の容器で育て始めました。一週間後に容器の水は泡立ち始め、数日で50粒全てが孵化しました。(この泡は、卵の硬い殻を破るために出す酵素によるのだそうです。)

孵化後の姿は、イクラの胴体に頭と尻尾をつけた形で、泳ぐことはできません。1ヵ月ほどは丸い胴体に溜め込まれている黄卵の栄養で育ちます。体がサケらしくスリムなってくると、泳ぐようになりエサを食べ始めます。エサは養殖魚用の小さな顆粒状で、水に浮いているエサしか食べないので、少しずつ様子を見ながら朝夕に与えました。エサを食べ始めると水が汚れるので、水替えが日課となりました。二月中旬には数センチとなり、放流日を迎えました。

放流が終わると、「放流証書」と、埼玉県知事と東京都知事あての葉書を頂きました。葉書には、「今日サケを放しました。荒川や東京湾をきれいにしてください。」と印刷されていました。荒川を管理している国に、何故ださなのか質問したら、「この運動に参加しているものの中心は園児や児童です。子供達に判りやすいように、知事宛ての葉書にしました。」ということでした。この葉書、都ではどの部署へ届いているのか把握していないが、埼玉県では、環境課が窓口であるということでした。

各建設事務所で、川に関する催しを行っています。河川の環境を守るべく、防災ボランティアとして、よりかかわっていきたいとの思いを強くしたサケの放流日でした。

寄稿 「防災雑感」

元江東区役所土木部長 坂口 清実

はじめに

防災教訓を生かすことが、防災への道と思いながら経験足らずの身を顧みず江東区在職時代を振り返り雑感を綴ります。

1、地域特性を知る

もう10年位前になりますが、元NHKのお天気おじさんで知られる倉島 厚先生が、ゼロメートル地帯の現況を知りたいと申され江東区に訪れましたが、その時の記事を紹介します。

江東区内には、過去の大水害を標示した『量水標』（既往高水位を明示）を水害記録モニュメント（右写真参照）として、区内に約30基設置してありますが、これに非常に関心を寄せられました。

この量水標は、先人の水害との闘いの苦勞を忍び、同時に、とかく忘れがちになっている地域住民が、自身の住環境（特に地盤が低い地域特性）を知り、日常生活の中から防災意識を高め、自ら行動することが災害防止にやくだつものと考えたからです。

当時、区議会で、量水標を設置すると、地盤の低い事が明瞭になり、区のイメージダウンと地価が下がる恐れがあると反対した議員もおりました。

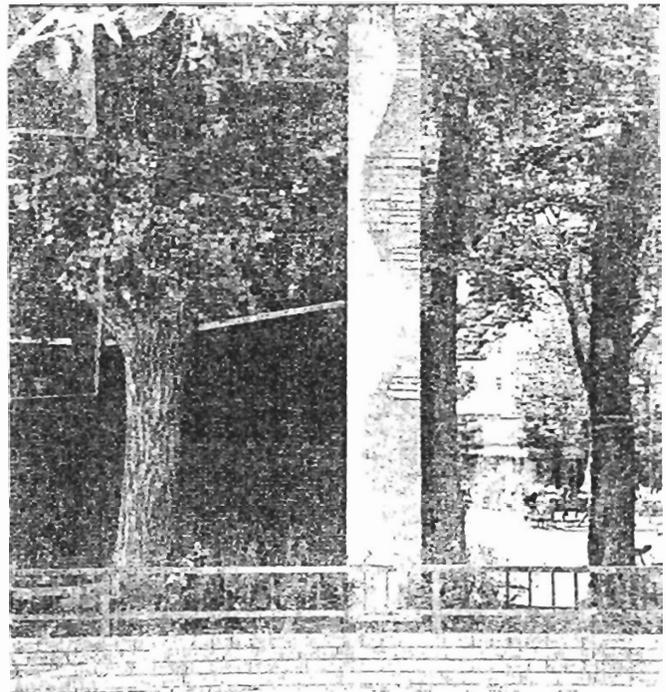
このような経緯をお話しながら長時間に亘って、車で区内を視察していただきましたが、先生からお褒めの言葉を頂き意を強くいたしました。

その時、先生は自然を良く観察することが防災の原点であると言われました。

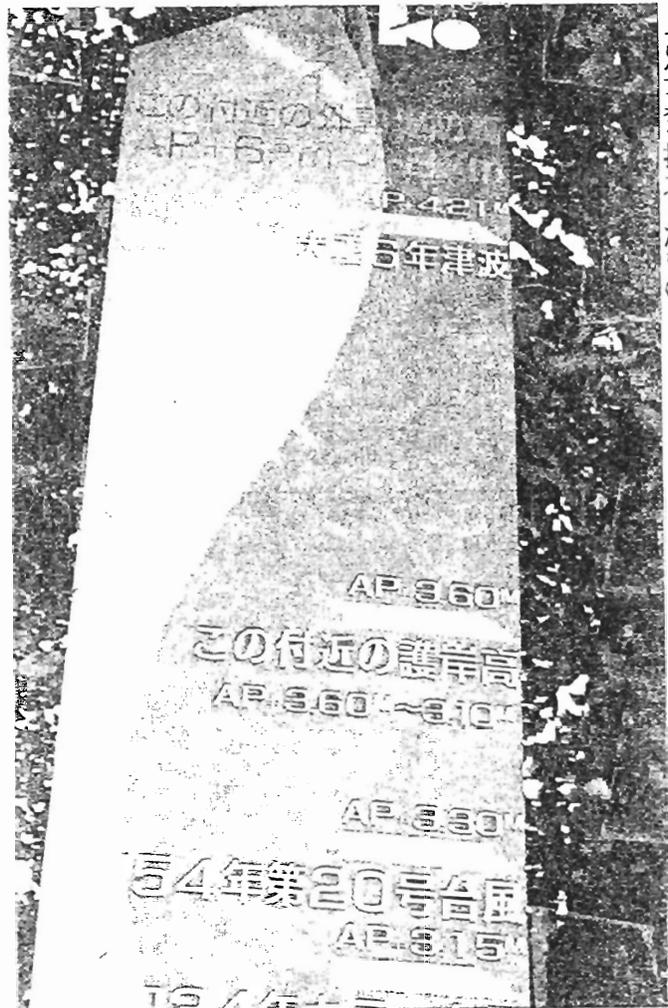
2、防災の本質を知る

行政マンのトップクラスに在る某氏が、ある講演会で良い話を聞いたと言って、自身の講演で引用されましたが、それは、「災害は忘れなければやってこない」と言う事でした。感心して聞き入っていた人も居ましたが、正直腹が立ちました。

自然はそんなに甘くない。言葉の裏返しでこと足りると思う短絡的な発想が情けない。背景に『備えあれば憂いなし』という本質的なことを付け加えないと言葉の遊びになってしまいます（十分承知の上とは思いますが）。



江東区東陽町公園内に設置した量水標のモニュメント



上の写真を拡大したもの

3、外郭堤防の威力

昭和54年10月に発生した台風20号では、隅田川河口部で潮位AP+3.30mに達し、戦後最大級のキティ台風（昭和24年8月発生、潮位AP+3.15m）を15cm上回ったが被害は殆どありませんでした。

この時の都知事の談話（「週刊とちょう」昭和54年10月26日号）で、先ず関係職員の努力を称え、最後に、“災害対策をはじめとして、行政というものは足が地についた着実な努力の積み重ねがあっはじめて都民の付託に応えられるものです”と結んでおりますが、身の締まる思いを覚えたことが今も脳裏に刻まれています。

同時に一般住民はどの様に受け止めたかが気になりました（のどもと過ぎれば暑さ忘れる）。

4、防災まちづくり

洪水高潮時の避難場所は、0メートル地帯に住む住民は、近くの高層住宅への避難が安全であり、避難場所として、高層住宅の階段部などが利用出来るよう、受け入れ側の住宅持ち主と避難対象者がまちぐるみで事前に協定を結んで置くことが重要であると思ひます。

それには、日常の地域コミュニティの構築が重要であると思ひます。

おわりに

最後に、建設防災ボランティアの皆さんに敬意を表し、ご活躍を祈る次第です。

また、我々江東区民は水害は忘れても外郭堤防で守られていることは忘れてならないことを付記し筆を置きます。

平成16年2月15日

参考（河川工学図書から引用）

“器には従いながら

岩をも通すは

水のみなりけり”

（昭憲皇太后 御歌）

【お知らせ】 4月1日

（財）東京都駐車場公社 は

（財）東京都道路整備保全公社

になります

15年度 新規入会者

氏名	郵便	住所	電話	班
大久保文夫	164-0013	中野区弥生町1-39-2	03-3373-8562	三建
新井 敏男	279-0012	浦安市入5-32-104	047-353-7152	一建
柳川 修	216-0033	川崎氏宮前区宮崎6-6-88	044-854-6147	七建
中島 和雄	344-0041	春日部市益富654-10	048-761-7105	六建

新規会員の皆様宜しくお願いいたします！



原稿募集

会員皆様からの原稿をお待ちしています。ジャンルは問いません。趣味、軟らかい話等大歓迎！

連絡先：東京都建設防災ボランティア協会事務局

東京都道路整備保全公社内（横田・金田）

電話：03-5381-3370

東京都公園協会内（荒木）

電話：042-548-9161

編集後記

- ★桜がちらほら咲き始めましたが、東京の開花宣言は3月18日で、九州・四国より早いのは驚きました。まさに、ヒートアイランド現象の影響でしょうか？
- ★坂口清美氏には、ボランティア協会に相応しい防災に関する珠玉の原稿をお寄せくださり心より感謝申し上げます。ありがとうございました。
- ★企画調整課久松主任にはお忙しい中、初動対応訓練のアンケートの纏め有難うございました。
- ★小森和雄氏には、当機関紙にたびたび貴重な原稿をご寄稿くださりありがとうございます。放流したサケの稚魚が大きくなって荒川に沢山戻ってくるとよいですね。
- ★当機関紙10号（15年12月15日付）で、ご案内した「第5回都響三宅支援チャリティコンサート」は、3月7日盛会裏に終了しました。会員の皆様ご協力ありがとうございました。

（城之内）